

かつどうれい 活動例 17	<p style="text-align: center;"><宝探し></p> <p>がっこうせいかつ がっこう つか ぶんぼうぐ 学校生活：学校で使われる文房具や 生活道具を知る</p> <p>にほんご がっこう つか もの なまえ おぼ 日本語：学校で使われる物の名前を覚える</p>	ひとり なんにん 1人～何人でも ぶんていど 10分程度
------------------	---	---------------------------------------

<準備>

がっこう つか ぶんぼうぐ せいかつどうぐ じつぶつ ある え かーど ようい
 学校で使うもの（文房具や生活道具）の実物、或いは絵カードを用意する。

<活動例>

- ① じつぶつ え かーど を み せ、 しどうしゃ が 「つくえ」と いう こと 後に 子どもに はんぷく れんしゅう を させます。
- ② じつぶつ え かーど を み せ、「何ですか？」と 質問 します。
- ③ え かーど を つか っ て、 たからさが げーむ を しましよ。 しどうしゃ は かーど を かく し、 子 どもは かーど を さが し、 み つけた かーど を しどうしゃ に み せ て 「つくえ」「ふではこ」 など と 答え ます。

<ポイント>

かーど を み せ る と き は、 かみしばい の よう に はんぶん かく し、 いちぶぶん だけ み せ た り し て 「何かな？」と おも せ る と、 こ の たの かつどう が 楽 し く 活 動 でき ます。

かつどうれい
活動例18

れんご かーど
＜連語カード＞
がっこうせいかつ いろ けいようし
学校生活：色 形容詞

ひとり～5人
ぶんていど
10分程度

じゅんび
＜準備＞

おな え なんまい こびー いちまい ちが いろ
同じ絵を何枚かコピーし、一枚ずつ違う色で
ぬ 塗ったものをようい 用意します。



かつどうれい
＜活動例＞

STEP 1

- ① いろ もの なまえ かくにん
色と物の名前の確認します。
- ② はじ おな かてごりー え まい つか かる た ようりよう あか とんぼ
初めは同じカテゴリーの絵を3枚を使い、カルタとりの要領で、「赤いトンボ」
「きいろ とんぼ」など「色＋名詞」を言って、子どもに取らせます。
- ③ じどう しどうしゃ やくわりこうかん
児童と指導者が役割交換をし、子どもが言ったものを指導者が取ります。
- ④ なんまいと いっしょ かぞ
何枚取れたかを、一緒に数えます。
※子どものレベルに応じて、枚数を調節します。

STEP 2

- ⑤ こた じどう な
答えられそうな児童には、「とんぼがいるのはどこ？」「ねこはどうやって鳴
く？」「はさみは何を切る？」など、絵を使って5W1Hのいくつかを質問しまし
よう。

ほいんと
＜ポイント＞

- ・ しんぶる きょうざい しどうしゃ しつもん しかた はば ひろ きょうざい
シンプルな教材ですが、指導者の質問の仕方によって幅の広がる教材です。
- ・ なんまい どう ひよう じどう じぶん なまえ か と かーど かず
何枚とれたか等を表にして、児童が自分の名前を書いたり、取ったカードの数を
すうじ か 数字で書いたりという活動も可能です。

かつどうれい 活動例 19	<スリーヒントゲーム> <small>がっこうせいかつ</small> 学校生活: <small>ごい</small> 語彙 (<small>かぞく</small> 家族や <small>しよくぎやう</small> 職業 など <small>ひと</small> 人を <small>あらわ</small> 表す <small>ごい</small> 語彙 <small>いろ</small> 色、 <small>ふく</small> 服、 <small>もちもの</small> 持ち物、 <small>じやうきやう</small> 状況 など) 短文理解	<small>ひとり</small> 1人~ <small>にん</small> 5人 <small>ぶんでいど</small> 10分程度
--------------------------	---	---

<準備>

- ・たのしいスリーヒントかるた がっけん 学研

<活動例>

スリーヒントかるたを使い、(よく似た絵ではあるけれども、細部が異なるものを) ことばによるヒントで理解して、カルタをします。



<ポイント>

日本語がある程度理解できる子ども向きです。

かつどうれい 活動例20	<どちらが ^{おお} 多い?> ^{さんすう} 算数:「 ^{おお} 多い、 ^{すく} 少ない」の ^{がいねん} 概念 ^{おお} 多い、 ^{すく} 少ない ^{かず} 数の ^い 言い ^{かた} 方	ひとり ^{にん} に 1人~5人 ぶんでいど 10分程度
-----------------	---	--

<準備>

お皿カード2枚と、りんごやいちごなど数えられる物の絵
 具体物の数が異なるペアになる絵カード

<活動例>

- ① お皿にりんごやいちごなどの具体物を載せ、目分量で「どっちが多い?」と比べ
 合います。目分量でよく分からないときは、並べ合って比べます。
- ② 具体物が用意できないときは、絵カードでもよいでしょう。
- ③ 「多い、少ない」がわかってきたら、2枚の絵カードを使って比較をします。こ
 のとき、絵カードは視覚だけで「多い、少ない」が分かるものを使います。

<ポイント>

- ・「目分量で比べる」から「数えて比べる」と徐々にレベルを上げていきます。
- ・助数詞は難しいので、子どものレベルに合わせて、「～こ」など統一できる絵を選
 ぶとよいでしょう。

<p>かつどうれい 活動例 2 1</p>	<p>すうじ <数字のへび> さんすう しかくてき すうじ なら な 算数：視覚的に数字の並びに慣れる すうじょう すうじ むす き 数唱と数字の結びつきに気づく</p>	<p>ひとり 1人～</p>
---------------------------	---	--------------------

じゆんび
<準備>
えんじょう すうじか ーど うご
円状の数字カードを、へびのように動くように
つなぎ合わせたものを用意します。



かつどうれい
<活動例>
① つね め ばしょ お かず い ぐたいぶつ かぞ ほそくてき しょう
常に目につく場所へ置いておき、数を言ったり、具体物を数えるときに補足的に使用
します。
② つなぎ合わせて、即席のすごろくとしても使用できます。

ほいんと
<ポイント>
・ じどう て の なが さくせい いろ えら
児童が手をいっぱい伸ばしたくらいの長さで作成し、色もはっきりしたものを
選びましょう。児童の注意をひくには、色と形、大きさ、素材が工夫されているもの
を選ぶとよいでしょう。
・ すうじ れんしゅう こ じぶんせんよう すうじ つく かつどう たの
数字の練習をかねて、子どもに自分専用の「数字のへび」を作らせる活動も楽しい
でしょう。

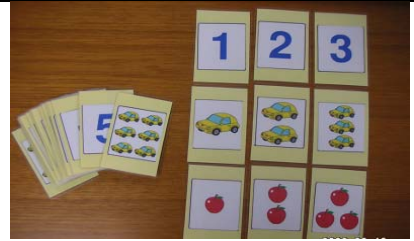
<p>かつどうれい 活動例 2 2</p>	<p><ぐたいぶつ かず まっ ちんぐ> 算数の基礎：具体物と数字のマッチング 日本語指導：数の言い方</p>	<p>ひとり 1人～5人 ぶんていど 10分程度</p>
---------------------------	---	--------------------------------------

<じゅんび>
準備

下記のウェブサイトから「数字カードC、D」を印刷し、ラミネートします。

<ちいくあそび こそだ<
知育遊び&子育てわあそび>

カード知育遊び用知育カード保管庫



http://www.sakunet.ne.jp/~hayaka1/card_asobi04.html

<かつどうれい>
活動例

STEP 1

- ① りんご、くるまの絵カードを数えながら、数の少ないカードから数の多いカードに順に並べます。
- ② 数字カードを、絵カードの具体物の数に合わせて並べます。
その逆に、初めに数字カードを並べて、その数の絵カードを並べることもできます。
- ③ トランプの7並べの要領で、ゲームをします。

STEP 2

- ④ 数字カードと絵カードで神経衰弱や、ばばぬきをして遊びましょう。

<ほいんと>
ポイント

- ・数字と具体物が結び付けられない子どもにすると効果的です。
- ・数唱の場合は、「いち、に、さん、し、ご、ろく、しち、はち、きゅう、じゅう」と言いますが、日本語が全く分からない子どもには「し」と「しち」、「しち」と「いち」の音の区別が付きにくいです。また、小学校入学直後に学習する算数の足し算では「4 + 7」の「4」を「よん」、「7」を「なな」と読みます。数助詞が付く場合も、「4台（よんだい）」、「7本（ななほん）」と読むので、数唱を優先して教え「4、7」を「し、しち」としか分からない状況ですと、算数の学習で躓くことがあります。「し」と「よん」のどちらか一方の言い方を優先させて教えるのであれば、集合数を教えるときに合理的な「よん、なな」で教え、定着してから「し、しち」を教えることもよいでしょう。
- ・「同じ」「並べる」ということばは算数でよく使われることばなので、定着させましょう。算数の基礎的な学習では、指導者は算数の学習で使われる用語を意識し反復して、使いましょう。

<p>かつどうれい 活動例23</p>	<p><あわせて いくつ> 算数：5までの数を数える。 二つの数を合わせた数が分かる。</p>	<p>ひとり 1人～5人 ぶんでいど 10分程度</p>
<p><準備> お手玉、箱2つ</p>		
<p><活動例></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもはお手玉を二つの箱に投げます。 ② 箱に入らず落ちたものは拾いませぬ。 ③ 2つの箱のお手玉をそれぞれ数えます。 ④ 最後に「〇個と〇個、合わせていくつ？」と聞きます。 		
<p><ポイント> 数の合成の導入の活動です。「合わせていくつ」という言い方を定着させましよう。 お手玉の数は、初めは5個までとし、次第に増やしていくとよいでしょう。</p>		

かつどうれい
活動例 24

<タンگرام>
さんすう かたち にんしき
算数：形の認識

ひとり なんにん
1人～何人でも
ぶんでいど
10分程度

じゅんび
<準備>

- ・タンگرامのパーツを用意します
(作成するなら、正方形の厚紙を下の写真のように、7つのパーツに切って用意。
)。
やり方はインターネットなどで検索することができます。



かつどうれい
<活動例>

- ① 上の図のように、正方形になるパーツ7枚を用意し、ばらばらにして正方形をつくりなおします。
はじめは、見本を見せて同じように作らせます。
- ② 動物やロケット、うさぎなどのタスクをレベルに合わせて与えます。
- ③ 数・形・大きさ・色などの言い方を確認します。

ほいんと
<ポイント>

単純な形の組み合わせで、複雑な形（動物など）ができることへの関心を高めます。

楽しいので、子どもたちはどんどんやりたがります。時間を区切って勉強のご褒美や時間が余ったときの調節などにも活用が可能です。

<p>かつどうれい 活動例 25</p>	<p>カラフルポンポン 学校生活：箸の使い方 色、状態を表すことば 算数：数と量の一致</p>	<p>ひとり～5人程度 10分程度</p>
--------------------------	---	---------------------------

<準備>

- ・箸
- ・お椀
- ・適当な大きさ、重さ、箸でつまみやすい素材のポンポンを用意



<活動例>

STEP 1 (箸の使い方練習)

- ・お椀をふたつ用意し、箸を使ってポンポンをお椀からお椀へ、移す練習をします。
- ・箸でつまみやすい大きさ、重さ、素材のポンポンから練習を始め、徐々に小さいものや、滑りやすいものなどに難度をあげていきます。
- ・時間を計って、決まった時間内にいくつ移すことができるかなどの競争をするのも楽しいでしょう。

STEP 2 (色や数の練習)

- ・複数の色をひとつのお椀へ入れて、「赤だけ出してください。」
- ・複数の色のポンポンを机に山積みにし、「緑を1こ、先生にください。」「黄色を2こ、〇〇ちゃんにあげてください。」など、色や数の練習もできます。

STEP 3 (状態を表す言葉や、オノマトペの導入)

- ・素材や質感の違うものを用意して、「ふわふわのを先生にください。」「つるつるのを先生にください。」などの活動もできます。

<ポイント>

- ・箸を使った経験がない子どもも楽しんで活動できます。
- ・子どもはカラフルなものを喜びます。準備は簡単にできますが、体を使う活動で、集中できます。数、色、状態を表す言葉、オノマトペなども一緒に学ぶことができます。

<p>かつどうれい 活動例 26</p>	<p>さかなつ ＜魚釣り＞ さんすう：ぐたいぶつ かぞ 算数：具体物が数えられる。 おお いろ ぶんるい 大きさや色で分類する。</p>	<p>ひとり 一人～5人 ぶんていど 40分程度</p>
--------------------------	--	--------------------------------------

じゅんび
＜準備＞

- ・さかなの絵を印刷した用紙、はさみ、クレヨン、クリップ
（大きい魚、小さい魚を用意する。最低10匹程度は必要。）
- ・割り箸の先にじょうぶな糸をつけ、その先端にマグネットをつけた釣りざお

かつどうれい
＜活動例＞

- ① 魚つりをするために、魚を作ることを告げ、プリントしてある魚の絵に色を塗らせます。
このとき、色の名前も教えます。
- ② 色を塗ったあとに、魚の形に切ります。
はさみを使った経験のない子どももいるので、はさみの使い方も教えます。
- ③ 切り取った魚の口の部分にクリップを付け、床を池に見立ててばらまきます。
- ④ 魚釣りのやり方の説明をし、時間を区切って魚釣りをします。
- ⑤ 何匹つれたか数えます。
このとき、「魚を同じ方向に並べて」「一匹ずつ指で触れながら」一緒に数えます。
- ⑥ 釣った魚の、大きさや色で分類し、「大きい魚がいくつ？」とか「赤い魚はいくつ？」と形容詞や色の名前をインプットしながらの活動も可能です。

ほいんと
＜ポイント＞

- ・数えるときに、日本語がまだよく分からないときは、「1、2、3」と数え、「ひとつ、ふたつ」や「1匹、2匹」は使わないほうがよいでしょう。
- ・はさみを使った経験のない子どもには、単純な形の魚を用意し、日ごろからはさみを使うことのある子どもには少し複雑な形の魚を用意するなど、子どもの状況に応じて課題のレベルを変えましょう。